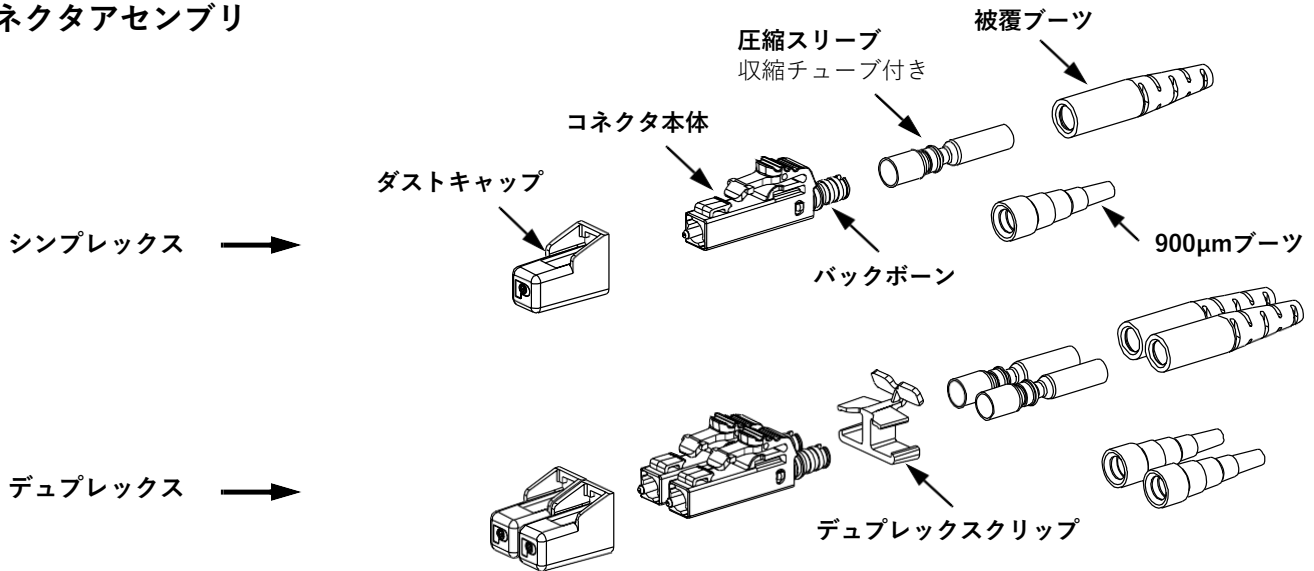


最初に、すべての説明をよくお読みください

構成部品一覧

コネクタアセンブリ



成端に必要な製品

項目	部品番号	説明
1	CST-115	ファイバーケーブル被覆ストリッパー
2	FALC	アルコールボトル (空)
3	FBFSP	光ファイバー緩衝ストリッパー
4	FLPT	LC 圧着工具
5	FSCRIBE	カーバイドスクライブ
6	FGLS	保護眼鏡
7	FLCPK	LC 研磨パック (1.25mm フェルルール)
8	FJPMR	下塗剤
9	FJPXY	嫌気性粘着剤
10	FHSCT (または) FHSCT-W	熱収縮硬化用工具 (110VAC / 60Hz - 1.6mm/2.0mm)、熱収縮硬化用工具 (230VAC / 50Hz - 1.6mm/2.0mm)
11	FKS	アラミド糸はさみ
12	FPP5-L	5µm 研磨フィルム (酸化アルミニウム)
13	FPF1-V	1µm ダイヤモンド研磨フィルム
14	FLCPAD	85 デュロメーター研磨パッド
15	FSCDVR	ドライバー
16	FSCOPE	200 倍顕微鏡
17	FLCASC	1.25mm FSCOPE アダプター
18	FSTY	廃棄ファイバー用安全ステッカー
19	FSWB-C	クリーニング用綿棒
20	FSYR-X	針付き注射器
21	FTWZR	ピンセット
22	FWP-C	クロスワイブ
23	PFX-0	不滅インクマーキングペン
24	FLOUPEX10	ルーペ (10 倍)
25	--	イソプロピルアルコール (濃度 90% 以上の試薬グレード。バンドウイットでは扱っていません)
26	FLCFPLF-X	0.05µm ラッピングフィルム (単一モードの成端のみ使用)
27	FWBTL	蒸留水ボトル (空)
--	--	蒸留水 (Panduit では扱っていません)
オプション	PN335*	LC コネクタストリッピングテンプレート

* はストリッピングテンプレート改訂記号を示します。

目次

	ページ
安全上の注意	2
900 μ m タイトバッファファイバーの成端	3-6
1.6mm ~ 2.0mm ケーブル外被覆成端	7-11

安全上の注意

1. 保護眼鏡

警告: 光ファイバーを扱うときは保護眼鏡を着用することを強くお勧めします。光ファイバーはとてつ鋭利で、目を簡単に傷つけてしまいます。

2. イソプロピルアルコール

警告: イソプロピルアルコールは可燃性です。目に入ると炎症の原因になります。目に入った場合は、流水で 15 分間以上洗い流してください。イソプロピルアルコールは、必ず換気の良いところでお使いください。飲み込んでしまった場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

3. 推奨する接着剤と下塗剤

警告: 推奨する接着剤（パンドウイト部品番号 FJPXY）には、マレイン酸およびメタクリル酸エステルが含まれている場合があります。万が一目に入った場合は、流水で 15 分間洗い流して、医師の診察を受けてください。皮膚に付着したときは、水で洗い流してください。さらなる安全対策については、M.S.D.S.をお求めください。消費期限については、ボトルの「使用期限」をご覧ください。

警告: 推奨する下塗剤（パンドウイト部品番号 FJPMR）には、アセトンが含まれている場合があります。下塗剤は、吸い込んだり飲み込むと危険です。目や皮膚に付着した場合は、流水で洗い流してください。飲み込んだり目に入った場合は、医師の診察を受けてください。嘔吐を誘発してはいけません。消費期限については、ボトルの「使用期限」をご覧ください。

4. ベアファイバーの処理

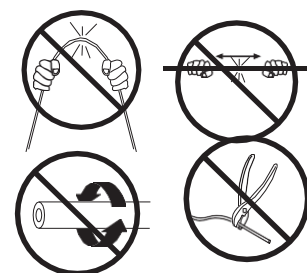
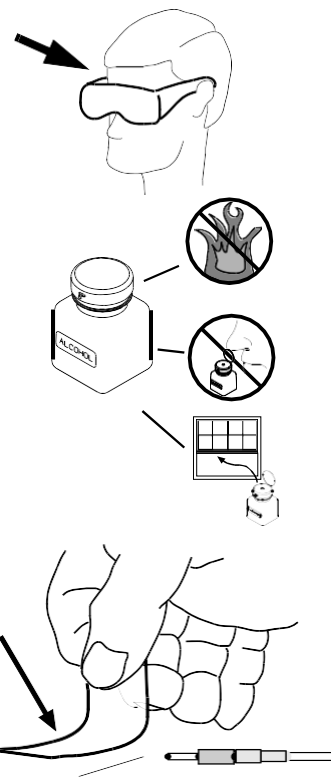
警告: ベアファイバーは 1 本残らず付箋で拾い上げて、廃棄してください。ファイバーの破片は見つけにくく、負傷の原因になるので、衣服に付いたり作業場に落としたりしないでください。

5. レーザー光からの保護

警告: レーザー光は目に見えません。不可視光は、目に傷が付くほど強力です。目の網膜に深刻な被害を与える可能性があります。決して光ファイバーの先端をのぞき込んだりしないでください。レーザー光が通っている可能性があります。レーザー光が誤って目に触れてしまった場合は、直ちに目の検査を受けるようにしてください。

6. ケーブルの取扱い

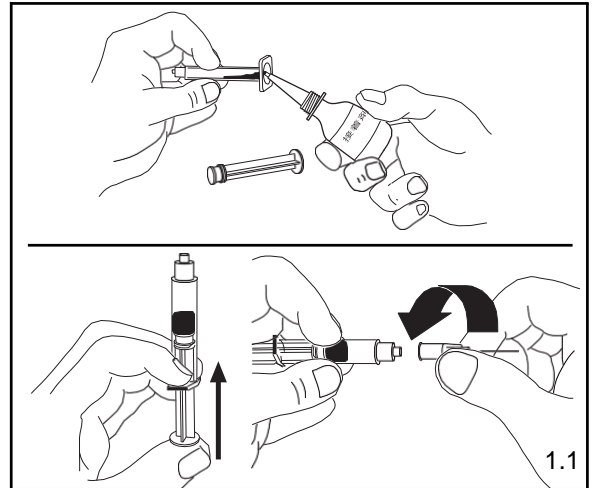
警告: 光ファイバーケーブルは、過度に引っ張ったりねじったり、押しつぶしたり、曲げたりして圧力をかけると、破損する可能性があります。ケーブルのベンダーにより定められたそれぞれの仕様書をよくお読みください。傷が付くと光ファイバーの性能が低下する可能性があります。



900 μ m タイトバッファファイバーの成端

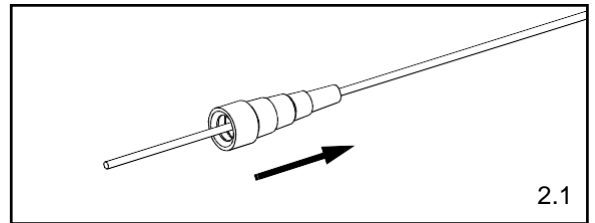
1. 接着剤と下塗剤を準備する

- 1.1 プランジャーを注射器から取り出します。約 0.5ml の FJPXY 嫌気性接着剤を絞り出して注射筒の後ろから入れます。プランジャーを挿入します。出口を上に向けて、空気を注射筒から押し出します。針を注射器に取り付けます。接着剤は注射器の中に入れておくと 24 時間以内に固まります。



2. 900 μ m タイトバッファファイバーの被覆を除去する

- 2.1 光ファイバーの端を 900 μ m ブーツの小さい先端から通します。ブーツを後方へ滑らせます。
- 2.2 ストリッピング寸法に従い、バッファの端から 13.5mm (0.53 インチ) の位置にマーキングペンを使用してマークを付けます。
- 2.3 付属のファイバーバッファストリッパーで、バッファの被覆を除去します。

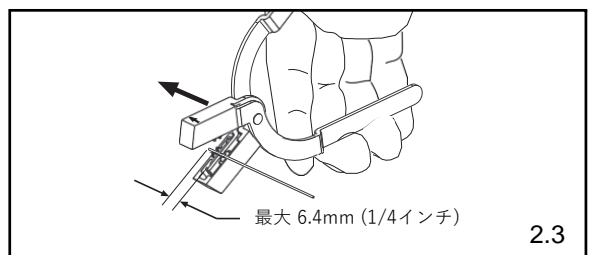
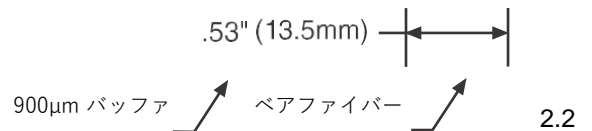


バッファストリッピングのガイドライン:

- 光ファイバーを傷つけないように、一度に取り除くバッファの長さは 6.4mm (1/4インチ) までにしておくことをお勧めします。具体的なアドバイスについては、ケーブルメーカーのバッファストリッピングのガイドラインを参照してください。
- バッファストリッパーを、矢印がバッファを剥ぎ取る方向を指すように持ちます。
- ストリッパーの刃の位置に注意しながら、光ファイバーをストリッパーの V ノッチに置きます。ハンドルをしっかり絞って、矢印の方向にストリッパーを引っ張ります。
- バッファストリッパーの刃は、被覆を剥ぎ取るごとにきれいにしてください。ハンドルを開いて持ち、被覆を引き戻すと、刃からはじき飛びます。

900 μ m タイトバッファのストリッピング寸法

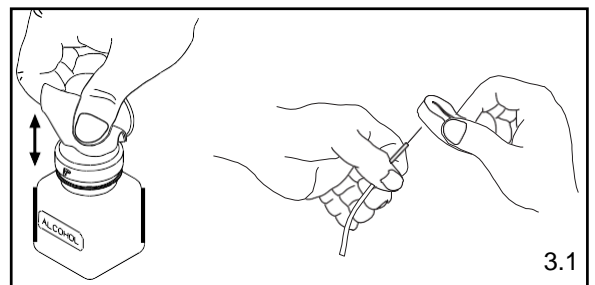
重要: 印刷紙ではブレがあるため、硬質のスケールをストリッピング寸法で使用するか、適切なバンドウイットラミネートテンプレートを使用してください。



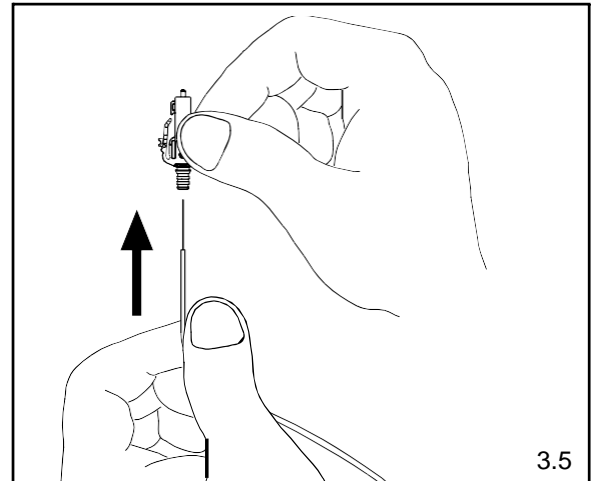
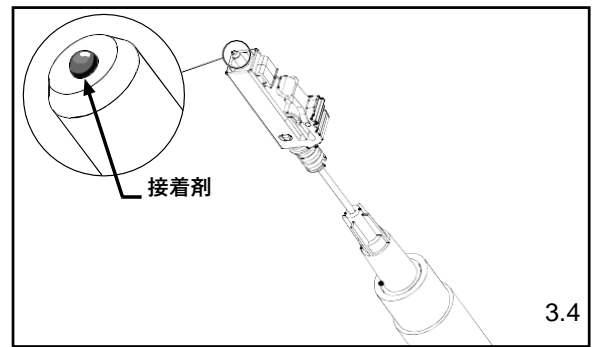
3. フェルールを 900 μ m タイトバッファファイバーに取り付ける

この説明は、嫌気性粘着剤を使用する場合だけに該当します。

- 3.1 ベアファイバーを、アルコール（濃度 90% 以上）に浸したリントフリーのワイプを使ってきれいに拭きます。光ファイバーには被膜やかすが一切付かないようにしてください。ファイバーを、接着剤や下塗剤を付けずにフェルールアセンブリに挿入してぴったり合うことを確認し、フェルールの穴の邪魔になる破片があれば取り除きます。光ファイバーを取り外して、もう一度きれいにし、次の手順へ進みます。

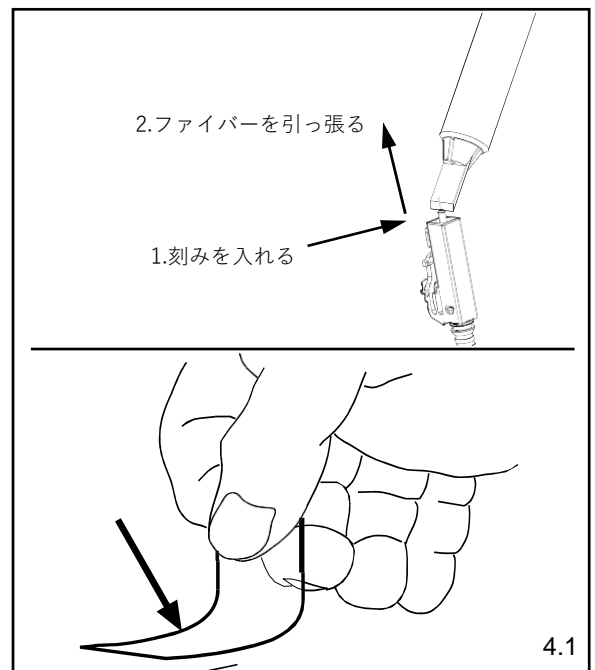
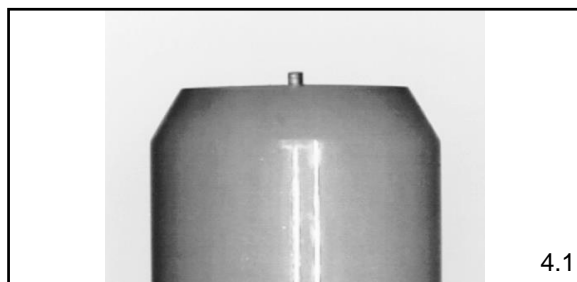


- 3.2 ベアファイバーに下塗剤を、ボトルのブラシで塗ります。ファイバーの横の 3.2 mm (1/8 インチ) のバッファまで塗ります。ファイバーにごみが付かないように気を付けながら、次の 3 つの手順を完了します。
- 3.3 接着剤を充填した注射器の針をコネクタセンブリの後部に差し込んで、針がフェルールの背部に突き当たるまで押し込みます。
- 3.4 針をフェルールの背部にしっかりと押し当てながら、プランジャーに静かに力を加えていくと、フェルールの前面の先端に接着剤の小さなしずくができます。3 秒間経ってから、針をフェルールアセンブリから抜き取ります。
- 3.5 慎重かつ素早くベアファイバーを、前へ滑らかに動かして、フェルールに差し込みます。バッファがフェルールの背部に突き当たると、ファイバーは完全に挿入されています。接着剤は数秒で固まり始めます。
- 注意: 接着剤がアセンブリの後部から漏れ出したら、注入しすぎです。余分な接着剤はすべて拭きとらないと、コネクタは正常に機能しません。**
- 3.6 1 分経って接着剤が固まったら、クリービングへ進みます。
- 3.7 リントフリーの乾いたワイプで針をきれいに拭きます。針に余分な接着剤が付いていないことを確認してから、次のコネクタに進んでください。



4. 900 μ m タイトバッファファイバーをクリービングする

- 4.1 フェルールの端面のすぐ上のベアファイバーに、クリービング用のカーバイドスクライブを使用して、上から小さな刻みをひとつ、そっといれます。ファイバーをフェルールから引き離して、付属の付箋 1 枚を使って廃棄します。FLOUPEX10 ルーペで見ると、短くなったファイバーがフェルールの先端から飛び出しています。
- 4.2 カーバイドの刃と指を、リントフリーの乾いたワイプできれいに拭きます。こうしておけば、コネクタが研磨やファイナルアセンブリの間に汚れることもありません。



5. 900 μ m タイトバッファファイバーを研磨する

このセクション全体をよく読んでから先へ進んでください。

研磨のガイドライン

- パックを研磨フィルムにぴったりと張り付けたままにします。
- 8 の字は高さが約 3 インチ、幅が 1.5 インチです。
- 必ず 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムのきれいな面で研磨してください。8 の字をフィルムで図 5.4 のように描きます。
- 1 枚の 5 μ m (ミクロン) 研磨フィルムで 2~4 個のフェルールを研磨できます。
- 1 枚の 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムで 100 個のフェルールを研磨できます。
- 1 枚の 0.05 μ m ラッピングフィルムで約 18~20 個のフェルールを研磨できます。
- 各手順の後で研磨パックとパッドを、アルコールで湿らしたきれいなワイプでクリーニングしてください。
- 研磨しすぎないでください。

- 5.1 5 μ m 酸化アルミニウム研磨フィルムを手に持って、クリーニングしたファイバー部分をフィルムに静かにこすりつけます。円を描くように動かしながら、ファイバーの先端がフェルールの先端や接着剤のしずくと同一面になるまでこすり続けます。ファイバーがフィルムに白い跡を残さなくなると、同一面になったことがわかります。

注意: フィルムを持つときは指で端だけを支えるようにしてください。ファイバーの直接後ろに指を置かないでください。

- 5.2 研磨パックと 85 デュロメーター研磨パッドを、アルコールを浸したワイプでよくきれいに拭いてください。1 枚の 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムをパッドの上に置きます。4 分の 1 の量の蒸留水をパッドの中心に置いて、フィルムを濡らします。

- 5.3 コネクタを静かに研磨パックに挿入していくと、コネクタがカチッと音をたてます。フェルールがパックの下側の穴から突き出ていることを確認します。フェルールが完全に飛び出さない場合は、コネクタを外して再度挿入する必要があります。

- 5.4 研磨パックを、研磨パッド上の蒸留水の中央に置きます。パックをフィルムとパッドにぴったり張り付けておきながら、力を均等にかけて 8 の字を描きながら研磨します。8 の字を 3~4 回描き続けます。

- 5.5 パックをひっくり返して、接着剤が残っていないか調べてください。残っている場合は、フェルールの中心の色が暗くなっていることでわかります。接着剤がまだ残っている場合は、手順 5.4 の 8 の字を 1~2 回描いて、もう一度調べます。

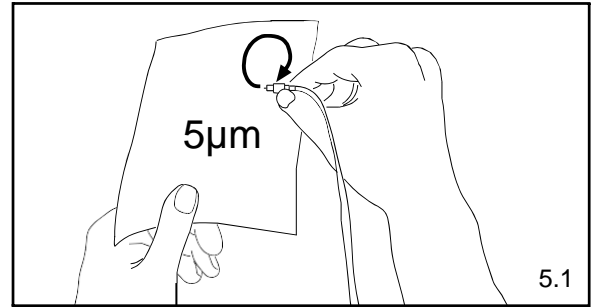
- 5.6 フェルールの先端とパックを、アルコールを浸したリントフリーのワイプできれいに拭きます。コネクタを 5 個研磨するごとに、アルコールを浸したワイプを使って 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムをきれいに拭いてください。

- 5.7 ファイバーの端面を、顕微鏡を使って検査します。傷が残っている場合は、さらに 1 μ m ダイヤモンドフィルムで 8 の字を 1~2 回描いてからもう一度調べます。

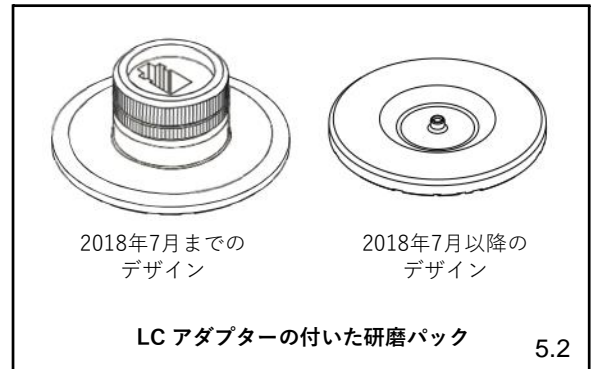
警告: 決して光ファイバーの先端をのぞき込んだりしないでください。レーザー光が通っている可能性があります。

注意: 接合が行われるたびに、アルコールを浸したリントフリーのワイプでフェルールの端面をきれいに拭いてください。

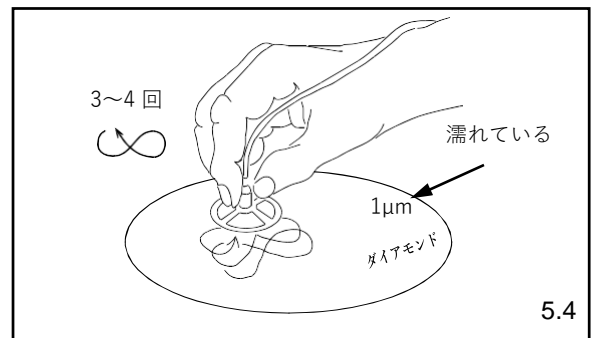
- 5.8 シングルモードの場合のみ: 一枚の 0.05 μ m ラッピングフィルムをパッドの上に置きます。数滴の蒸留水をフィルムの中央に落とします。



5.1

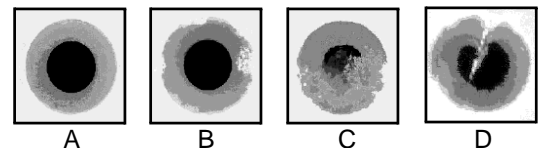


5.2



5.4

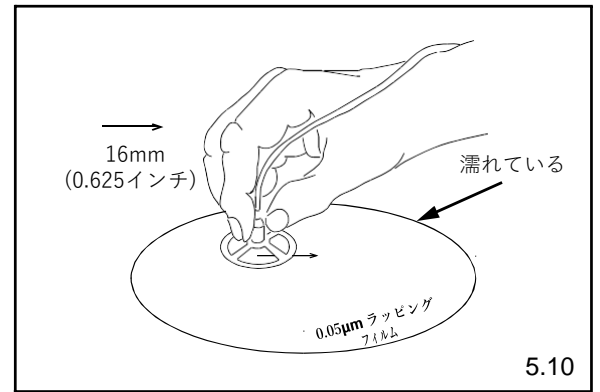
1 μ m ダイヤモンド研磨の後のフェルールの先端



- A = 理想的。コアや被覆材に傷がない。
- B = 良。被覆材は欠けているが、コアは無傷。
- C = 悪い。コアに傷がある。
再度研磨してみるか、再度成端する。
- D = 不合格。ファイバーが割れている。
再度成端する。

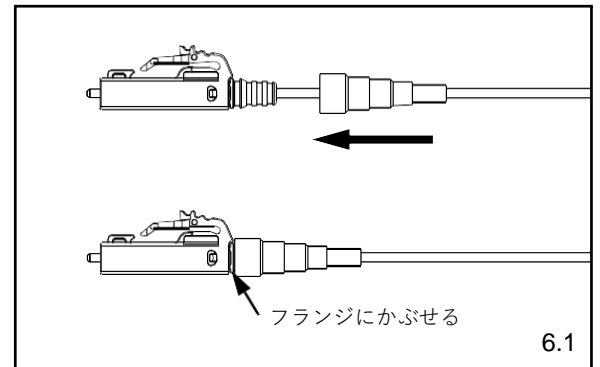
5.5

- 5.9 **シングルモードの場合のみ:** 研磨パックを、フィルムとパッド上の蒸留水の中央に置きます。パックをフィルムとパッドにぴったりと張り付けたまま、力を均等にかけて、パックを1度だけ、まっすぐ16mm (0.625インチ) 引っ張ります。
注意: 16mm (0.625インチ) を超えるとファイバーが余分に切り取られるので注意してください
- 5.10 **シングルモードの場合のみ:** フェルールの先端、パッド、パックを乾いたワイプで拭きます。
- 5.11 **シングルモードの場合のみ:** フェルールを、蒸留水を浸したワイプできれいに拭きます。**0.05 μ m ラッピングフィルムを使用した後で、アルコールを使用してクリーニングしないでください。**
- 5.12 ダストキャップをフェルールアセンブリにかぶせます。



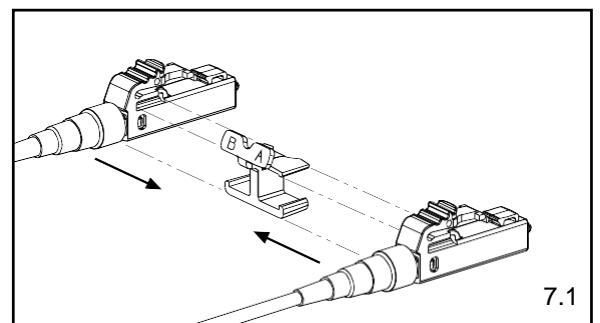
6. コネクタとブーツを組み立てる

- 6.1 ブーツを前に押し込んでバックボーンの溝付き部分を覆い、フランジと接触させます。

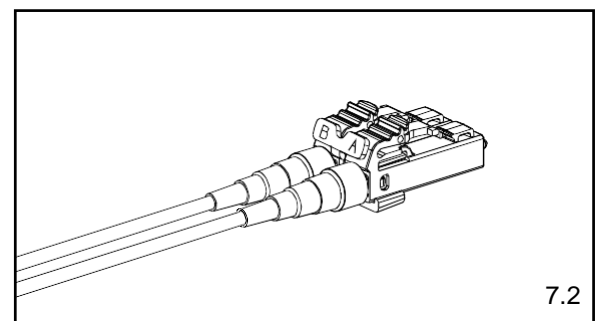


7. デュプレックスクリップを取り付ける

- 7.1 コネクタを図のように持って (ラッチが上、フェルールが外側を向く)、コネクタをデュプレックスクリップの片側へ図のように挿入します ('A->B' の極性マークが直立して前を向くようにクリップを持つ)。クリップの上側タブをコネクタのラッチの下側のポケットに挿入し、下側タブをコネクタハウジングの下に挿入して、「カチッ」と押し込んでロックします。
- 7.2 この手順をもう一方のコネクタで繰り返すと、デュプレックスリングの手順が完了します。



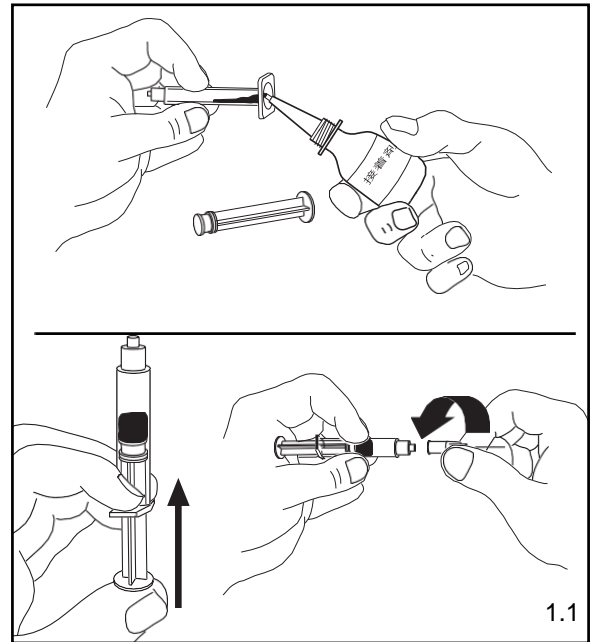
注意: ケーブルアセンブリを組み立てるときは、コネクタとコネクタの間の 'A->B' 極性交差が正しくなるようにしてください。



1.6mm ~ 2.0mm ケーブル外被覆の成端

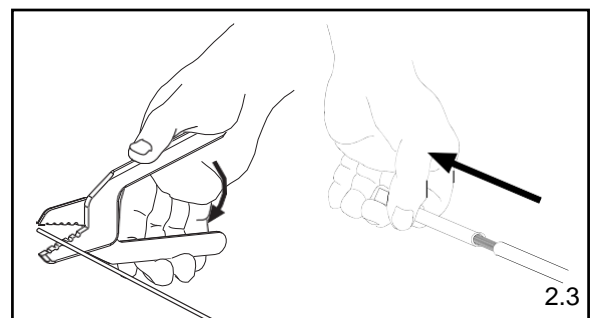
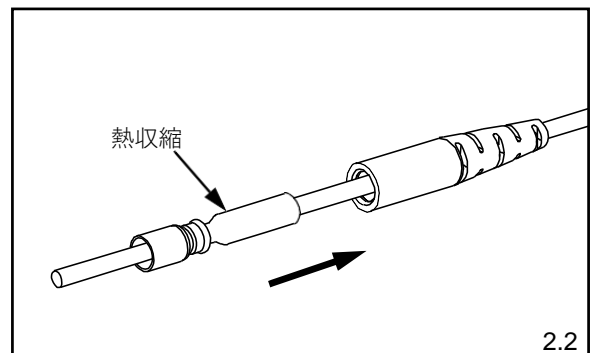
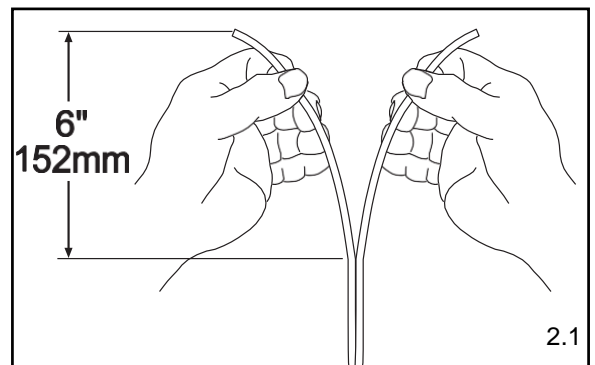
1. 接着剤と下塗剤を準備する

- 1.1 プランジャーを注射器から取り出します。約 0.5ml の FJPXY 嫌気性接着剤を絞り出して注射筒の後ろから入れます。プランジャーを挿入します。出口を上に向けて、空気を注射筒から押し出します。針を注射器に取り付けます。接着剤は注射器の中に入れておくと 24 時間以内に固まります。



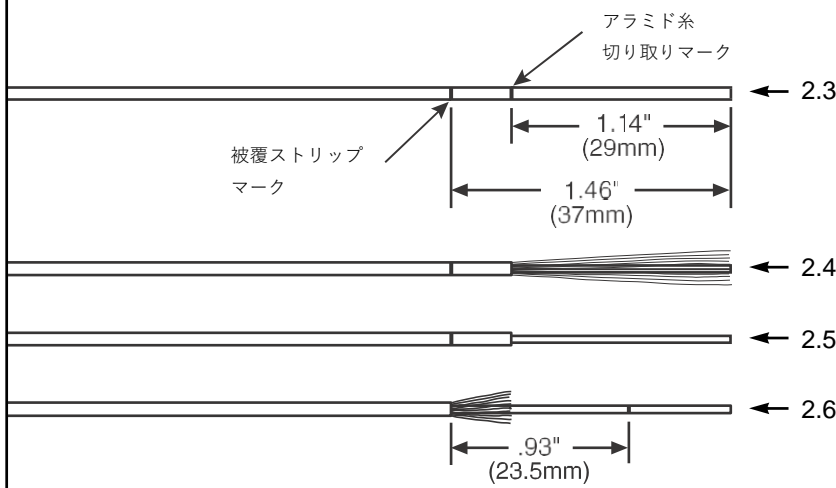
2. 1.6mm ~ 2.0mm のケーブル外被覆をストリッピングする

- 2.1 デュプレックスケーブルを使用している場合は、ケーブルを約 152mm (6インチ) くらいで 2 本に引き裂きます。
- 2.2 最初にケーブルをジャケットブーツの小さい方の先端に挿入して、次に圧着スリーブの熱収縮側を通します。両方をスライドさせてぴったり接合させます。
- 2.3 ストリッピング寸法に従い、マーキングペンを使用して各ケーブルを端から 29mm (1.14インチ) と 37mm (1.46インチ) の位置でマークします。
- 2.4 ケーブルの被覆を、アラミド糸切り取りマークで剥ぎ取ります。ジャケットストリッパーの刃が摩耗しないように、刃をアラミド糸に沿って走らせないでください。代わりに、ジャケットストリッパーを使用して被覆を切り裂いてから、被覆を手で剥ぎ取ります。1.6mm ~ 2.0mm の被覆ファイバーでは、ジャケットストリッパーの先端から 1 番目の穴 ("0.8MM" または #20AWG とマーク) を使用してください。
- 2.5 アラミド糸を、被覆の端と同一平面で切り取ります。
- 2.6 ケーブルの被覆を、被覆ストリップマークの位置で剥ぎ取ります。新しい被覆の端から 23.5mm (0.93インチ) の位置でバッファをマークします。

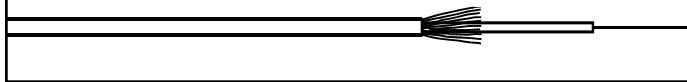


1.6mm ~ 2.0mm ケーブル外被覆のストリッピング寸法

重要: 印刷紙ではブレがあるため、硬質のスケールをストリッピング寸法で使用するか、適切なバンドウイットラミネートテンプレートを使用してください。

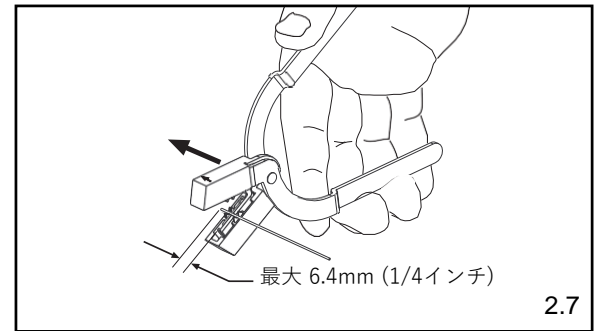


1.6mm ~ 2.0mm 被覆ケーブルのストリッピング寸法 (続き)



2.7

- 2.7 付属のバッファストリッパー工具を使用して、バッファを慎重に取り除いてファイバーを出します。



2.7

バッファストリッピングのガイドライン:

- 光ファイバーを傷つけないように、一度に取り除くバッファの長さは 6.4mm (1/4インチ) までにしておくことをお勧めします。具体的なアドバイスについては、ケーブルメーカーのバッファストリッピングのガイドラインを参照してください。
- バッファストリッパーを、矢印がバッファ除去の方向を指すように持ってください。
- ストリッパーの刃の位置に注意しながら、光ファイバーをストリッパーの V ノッチに置きます。ハンドルをしっかり絞って、矢印の方向にストリッパーを引っ張ります。
- バッファストリッパーの刃は、被覆を剥ぎ取るごとにきれいにしてください。ハンドルを開いて持ち、被覆を引き戻すと、刃からはじき飛びます。

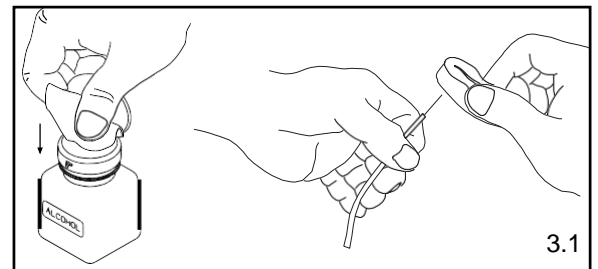
3. フェルールを 1.6mm ~ 2.0mm ケーブル外被覆に取り付ける

この説明は、嫌気性粘着剤を使用する場合だけに該当します。

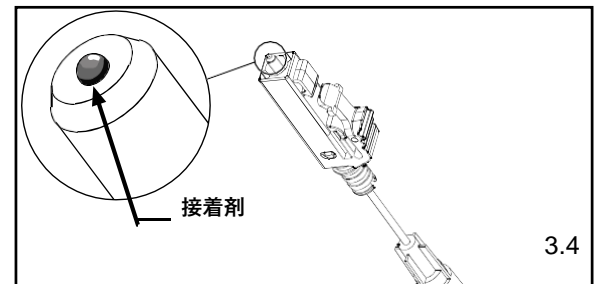
- 3.1 ベアファイバーを、アルコール（濃度 90% 以上）に浸したリントフリーのワイプを使ってきれいに拭きます。光ファイバーには被膜やかすが一切付かないようにしてください。ファイバーを、接着剤や下塗剤を付けずにフェルールアセンブリに挿入してぴったり合うことを確認し、フェルールの穴の邪魔になる破片があれば取り除きます。光ファイバーを取り外して、もう一度きれいにし、次の手順へ進みます。
- 3.2 ベアファイバーに下塗剤を、下塗剤ボトルのブラシで塗ります。ファイバーの横の 3.2 mm (1/8 インチ) のバッファまで塗ります。ファイバーにごみが付かないように気を付けながら、次の 3 つの手順を完了します。
- 3.3 接着剤を充填した注射器の針をコネクタセンブリの後部に差し込んで、フェルールに突き当たるまで押し込みます。
- 3.4 針をフェルールの背部にしっかりと押し当てながら、プランジャーに静かに力を加えていくと、フェルールの前面の先端に接着剤の小さなしずくができます。3 秒間経ってから、針をフェルールアセンブリから抜き取ります。
- 3.5 ファイバーをスムーズに動かしながら慎重にコネクタセンブリへ挿入して、フェルールを貫通させます。バッファがフェルールに突き当たると、ファイバーは完全に挿入されています。ケーブル被覆とバックボーンの間にはわずかな隙間があります。被覆を無理やりバックボーンに押し当てないでください。接着剤は数秒で固まり始めます。

注意: 接着剤がアセンブリの後部から漏れ出したら、注入しすぎです。余分な接着剤はすべて拭きとらないと、コネクタは正常に機能しません。

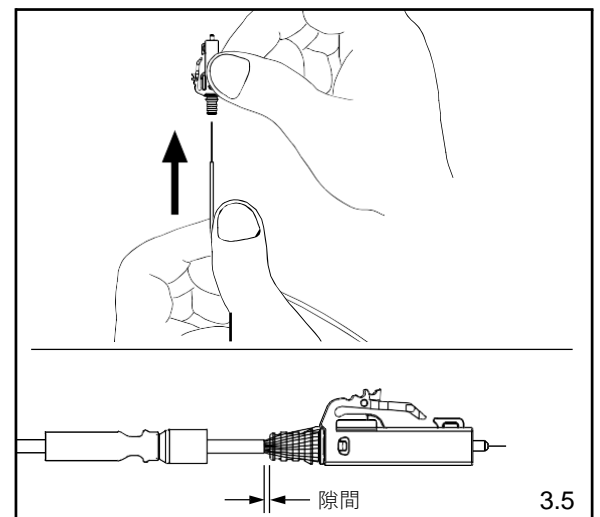
- 3.6 1 分経って接着剤が固まったら、クリービングへ進みます。
- 3.7 リントフリーの乾いたワイプで針をきれいに拭きます。針に余分な接着剤が付いていないことを確認してから、次のコネクタに進んでください。



3.1



3.4

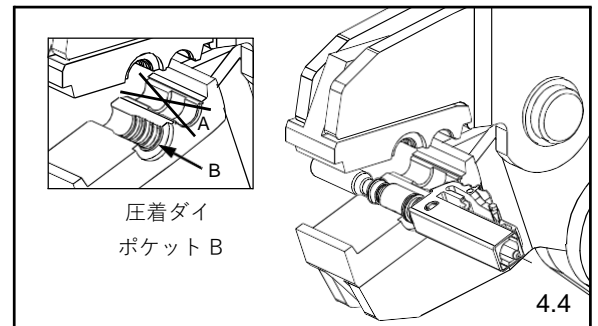
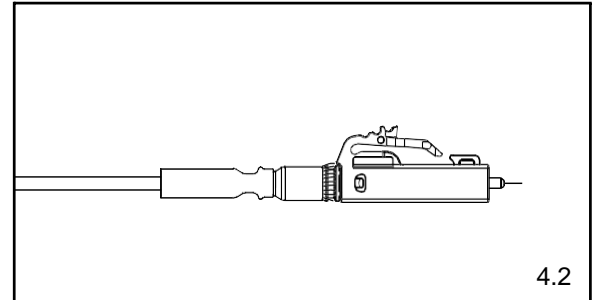
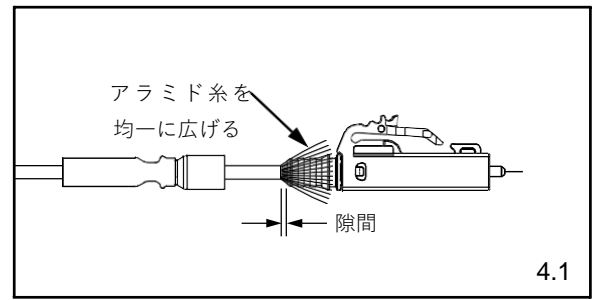


3.5

4. 1.6mm ~ 2.0mm ケーブル外被覆を圧着する

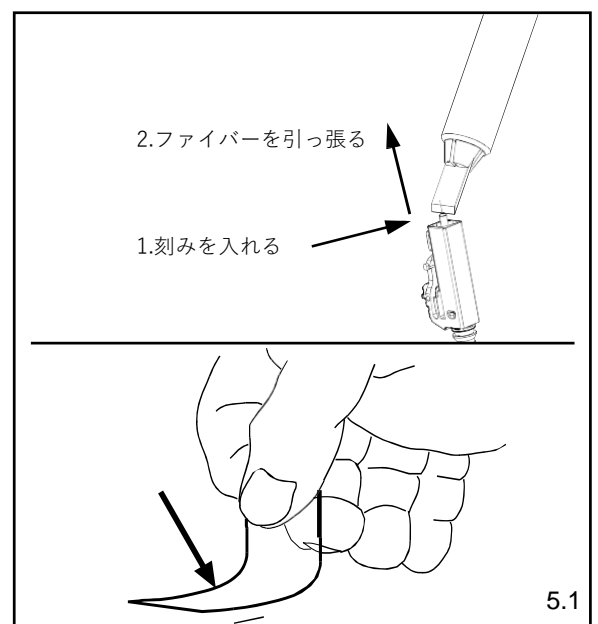
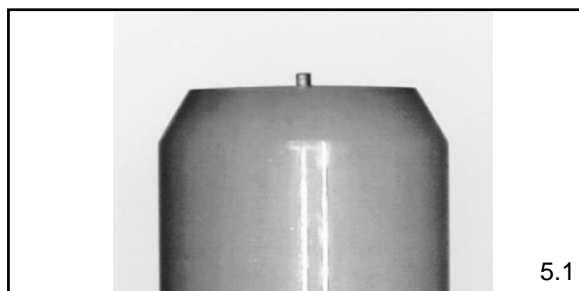
注意: この手順を行っているとき、フェルールから飛び出しているベアファイバーが破損しないように注意してください。

- 4.1 アラミド糸を、フェルールアセンブリのバックボーンの溝付き部分の周囲に均一に広げてください。ピンセットを使って形を整えます。ケーブル被覆とバックボーンの間にはわずかな隙間があります。
- 4.2 圧着スリーブをバックボーン上でスライドさせて、圧着スリーブとバックボーンの溝付き部分の間にアラミド糸を閉じ込めます。
- 4.3 圧着スリーブの前端を、圧着ダイポケット B の前端と合わせます。
- 注意:** 圧着ダイポケットの前端とは、ひだの付いた側です。
- 4.4 圧着スリーブがバックボーンにぴったりはまっていることを確認しながら、圧着スリーブを圧着します。



5. 1.6mm ~ 2.0mm ケーブル外被覆をクリービングする

- 5.1 フェールの端面のすぐ上のベアファイバーに、クリービング用のカーバイドスクライブを使用して、上から小さな刻みをひとつ、そっといれます。ファイバーをフェルールから引き離して、付属の付箋 1 枚を使って廃棄します。FLOUPEX10 ループで見ると、短くなったファイバーがフェールの先端から飛び出しています。
- 5.2 カーバイドの刃と指を、リントフリーの乾いたワイプできれいに拭きます。こうしておけば、コネクタが研磨やファイナルアセンブリの間に汚れることもありません。



6. 1.6mm ~ 2.0mm ケーブル外被覆を研磨する

このセクション全体をよく読んでから先へ進んでください。

研磨のガイドライン

- バックを研磨フィルムにぴったりと張り付けたままにします。
- 8 の字は高さが約 3 インチ、幅が 1.5 インチです。
- 必ず 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムのきれいな面で研磨してください。8 の字をフィルムで図 6.4 のように描きます。
- 1 枚の 5 μ m (ミクロン) 研磨フィルムで 2~4 個のフェルールを研磨できます。
- 1 枚の 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムで 100 個のフェルールを研磨できます。
- 1 枚の 0.05 μ m ラッピングフィルムで約 18~20 個のフェルールを研磨できます。
- 各手順の後で研磨パックとパッドを、アルコールで湿らしたきれいなワイプでクリーニングしてください。
- 研磨しすぎないでください。

6.1 5 μ m 酸化アルミニウム研磨フィルムを手にとって、クリーニングしたファイバー部分をフィルムに静かにこすりつけます。円を描くように動かしながら、ファイバーの先端がフェルールの先端や接着剤のしずくと同一面になるまでこすり続けます。ファイバーがフィルムに白い跡を残さなくなると、同一面になったことがわかります。

注意: フィルムを持つときは指で端だけを支えるようにしてください。ファイバーの直接後ろに指を置かないでください。

6.2 研磨パックと 85 デュロメーター研磨パッドを、アルコールを浸したワイプでよくきれいに拭いてください。1 枚の 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムをパッドの上に置きます。4 分の 1 の量の蒸留水をパッドの中心に置いて、フィルムを濡らします。

6.3 コネクタを静かに研磨パックに挿入していくと、コネクタがカチッと音をたてます。フェルールがパックの下側の穴から突き出ていることを確認します。フェルールが完全に飛び出さない場合は、コネクタを外して再度挿入する必要があります。

6.4 研磨パックを、研磨パッド上の蒸留水の中央に置きます。パックをフィルムとパッドにぴったり張り付けておきながら、力を均等にかけて 8 の字を描きながら研磨します。8 の字を 3~4 回描き続けます。

6.5 パックをひっくり返して、接着剤が残っていないか調べてください。残っている場合は、フェルールの中心の色が暗くなっていることでわかります。接着剤がまだ残っている場合は、手順 6.4 の 8 の字を 1~2 回描いて、もう一度調べます。

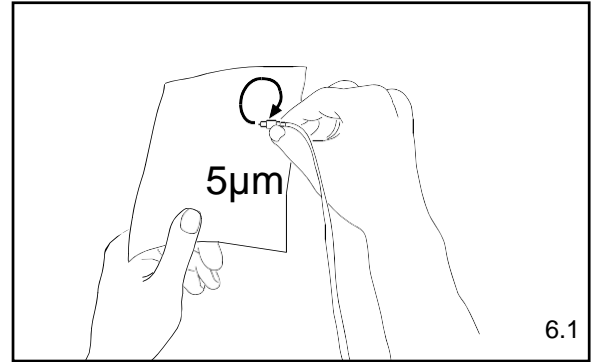
6.6 フェルールの先端とパックを、アルコールを浸したリントフリーのワイプできれいに拭きます。コネクタを 5 個研磨するごとに、アルコールを浸したワイプを使って 1 μ m ダイヤモンド研磨フィルムをきれいに拭いてください。

6.7 ファイバーの端面を、マイクロスコップを使って検査します。傷が残っている場合は、さらに 1 μ m ダイヤモンドフィルムで 8 の字を 1~2 回描いてからもう一度調べます。

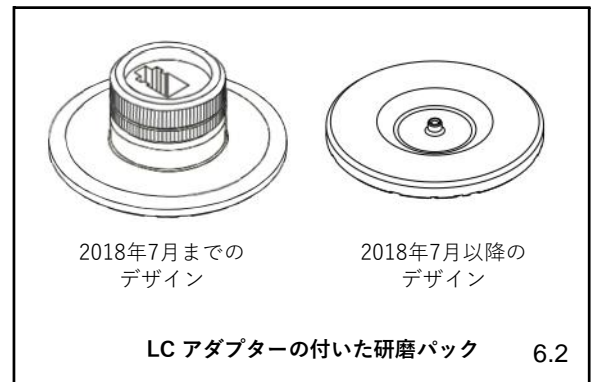
警告: 決して光ファイバーの先端をのぞき込んだりしないでください。レーザー光が通っている可能性があります。

注意: 接合が行われるたびに、アルコールを浸したリントフリーのワイプでフェルールの端面をきれいに拭いてください。

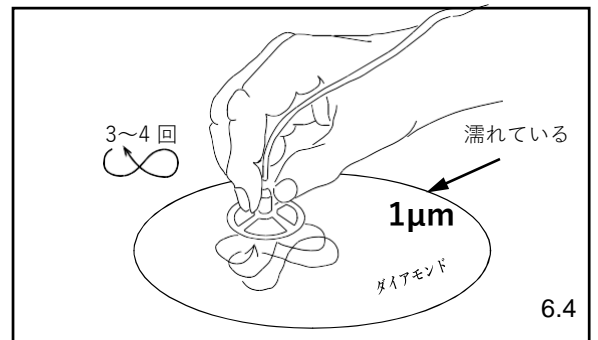
6.8 シングルモードの場合のみ: 一枚の 0.05 μ m ラッピングフィルムをパッドの上に置きます。数滴の蒸留水をフィルムの中央に落とします。



6.1

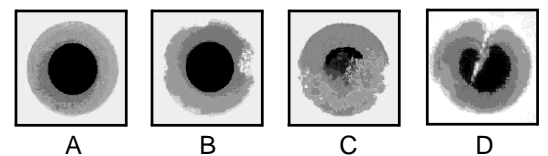


6.2



6.4

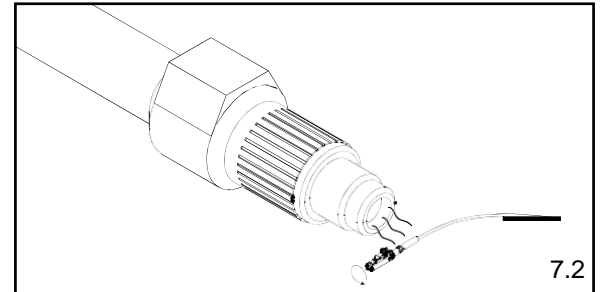
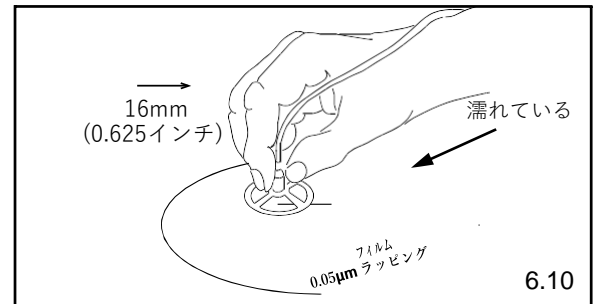
1 μ m ダイヤモンド研磨後のフェルールの先端



- A = 理想的。コアや被覆材に傷がない。
 B = 良。被覆材は欠けているが、コアは無傷。
 C = 悪い。コアに傷がある。
 再度研磨してみるか、再度成端する。
 D = 不合格。ファイバーが割れている。
 再度成端する。

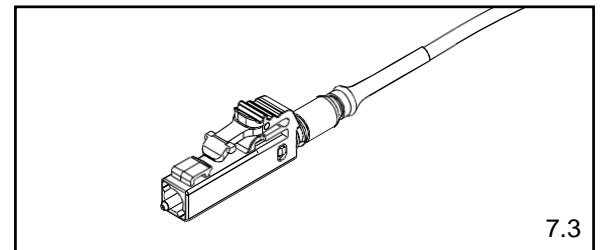
6.5

- 6.9 **シングルモードの場合のみ:** 研磨パックを、フィルムとパッド上の蒸留水の中央に置きます。パックをフィルムとパッドにぴったりと張り付けたまま、力を均等にかけて、パックを1度だけ、まっすぐ16mm (0.625インチ) 引っ張ります。
注意: 16mm (0.625インチ) を超えるとファイバーが余分に切り取られるので注意してください
- 6.10 **シングルモードの場合のみ:** フェルールの先端、パッド、パックを乾いたワイプで拭きます。
- 6.11 **シングルモードの場合のみ:** フェルールを、蒸留水を浸したワイプできれいに拭きます。**0.05 μ m ラッピングフィルムを使用した後で、アルコールを使用してクリーニングしないでください。**
- 6.12 ダストキャップをフェルールアセンブリにかぶせます。



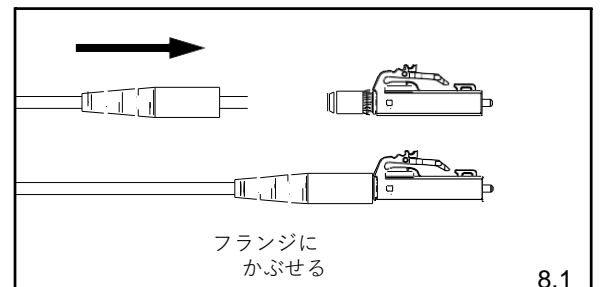
7. 熱収縮チューブを硬化する

- 7.1 熱調整ノブを回して、白い線をノッチの中心にします。
- 7.2 熱収縮硬化用工具を「オン」にします。(ノズルの温風の温度は 220° F ~ 240° F になります)
- 7.3 コネクタをしっかりとおさえます。
- 7.4 熱収縮チューブに温風を当てます。熱収縮チューブをノズルから約 1/2 インチ離しておいてください。コネクタを 20~30 秒間回転させると、熱収縮チューブが被覆と完全に接合します。
- 7.5 コネクタを温風から離します。
- 7.6 熱収縮硬化用工具を「オフ」にします。



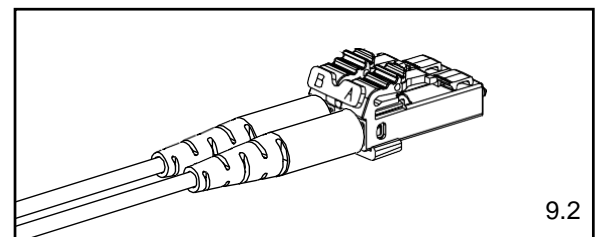
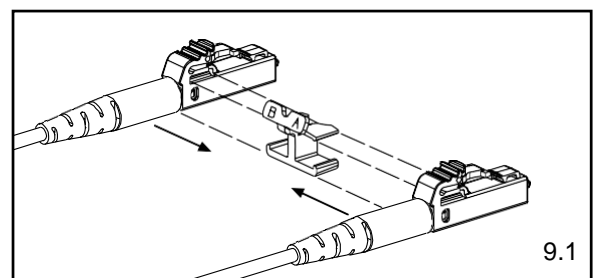
8. コネクタとブーツを組み立てる

- 8.1 ブーツをスライドさせて圧着スリーブとバックボーンにかぶせます。ブーツを、フランジのショルダー部に向かって押し込んでください。ブーツがフランジと密着すると「カチッ」と音がします。



9. デュプレックスクリップを取り付ける

- 9.1 コネクタを図のように持って (ラッチが上、フェルールが外側を向く)、コネクタをデュプレックスクリップの片側へ図のように挿入します ('A->B' の極性マークが直立して前を向くようにクリップを持つ)。クリップの上側タブをコネクタのラッチの下のポケットに挿入し、下側タブをコネクタハウジングの下に挿入して、「カチッ」と押してロックします。
- 9.2 この手順をもう一方のコネクタで繰り返すと、デュプレックスングの手順が完了します。



注意: ケーブルアセンブリを組み立てるときは、コネクタとコネクタの間の 'A->B' 極性交差が正しくなるようにしてください。